

## 心理学部 3つのポリシー

### ディプロマ・ポリシー

心理学部では、心理学及び関連領域に関する専門的知識や技能を幅広く身につけることで、犯罪や非行を始めとする地域社会における諸問題の解決、地域住民の精神的健康の維持と福祉の増進、地域における子どもたちの健やかな発達の促進、及び地域の企業活動に貢献できる人材を育成します。

具体的には、本学ディプロマ・ポリシーに掲げる「駿大社会人基礎力」を涵養し、下記に示した専門的知識・技能・能力を修得した者に対して学士（心理学）の学位を授与します。

#### 1.心理学の専門知識と技能の修得

心理学の基礎及び応用に関する知識と技能を幅広く身につけ、人間や社会に関心を持ち、自ら必要な知識や情報を収集することができます。

#### 2.心理学的な理解力と分析力の修得

実験、調査、観察、検査、面接といった心理学測定法を用いて、人間行動及び社会の諸現象についての情報を収集し、統計解析することができます。

#### 3.心理学関連領域の専門知識の修得

心理学関連領域の専門知識を修得し、人間及び社会について多面的に理解することができます。

#### 4.現実社会での諸問題に能動的に関わる能力と姿勢の修得

上記の専門的知識や技能と卒業研究で養った問題解決能力によって、精神的健康に関する問題、犯罪や非行を始めとする社会病理に関する問題、親子関係などを含む子どもの発達に関する問題などに関心を持って取り組み、自ら課題を発見し、その解決を目指すことができます。

### カリキュラム・ポリシー

心理学部では、本学カリキュラム・ポリシーに基づき、心理学専門教育の科目を体系的に配置します。同時に、公認心理師の受験要件を満たすことのできるカリキュラム編成とします。

講義科目は、その内容を考慮して適切な学年に配置します。また、1・2年次に「プレゼミナール」、3・4年次に「ゼミナール」を開講し、すべての学生が4年間を通じて少人数のゼミナールに所属します。さらに、「心理学実験」、「面接演習」などのアクティブ・ラーニング等、主体的関与と相互交流を促進する手法を取り入れた科目を多く開設します。

また、科目ナンバリングやカリキュラムツリーによって、科目の難易度、科目間の関連、基礎から専門への展開が理解できます。これにより、学生はカリキュラム体系を意識しながら学習を進めることができます。

## 1.教育内容

### (1)共通教養教育

共通教養教育は、4年間の学修の基礎となる知識や技能と、地域社会の中核を担う社会人としての基礎となる知識や技能を、バランス良く身に付けられる内容としています。具体的には、以下の科目を通じて教育を行います。

1年次には導入教育を重視し、必修科目「人間研究の視点」では人間を研究する際の基本的視点や姿勢を、「プレゼミナール」では大学での学びの姿勢を身につけます。

加えて、グローバル化・情報化の著しい社会において必要な語学や海外の文化、ICTリテラシーや数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を修得します。さらに、大学生活を含めた人生設計・就職活動の準備のために体系的で効果的な全学共通のキャリア教育を行います。

さらに、4年間の学修を計画的に進めることができるよう、専門教育の礎となる学部科目を必修科目として配置しています。

### (2)専門教育

心理学全般を広く把握することのできる概説科目と、専門科目のうちでも基本的と考えられる科目については、1年次から履修可能です。心理学の様々なトピックスへの興味や心理学全体への関心を深めることで、自己の関心や興味がどの領域にあるかを意識することができます。これにより、2年次以降の専門科目選択、2年次のコース選択、3年次のゼミナール選択をより適切なものとすることができます。

また、1年次には、コンピュータの使用法を修得するための「コンピュータ・リテラシー」を開設しています。2年次には、「データ分析Ⅰ（心理学統計法）」においてデータ分析と統計学の基礎的な知識と技能を習得します。さらに、2年次以降に開設されている心理学の研究方法に関する授業では、心理学研究の実施に必要な知識を自ら体験しながら学びます。

2年次からは、自らの興味や関心に合致した学習を展開できるように、「臨床の心理コース」、「犯罪の心理コース」、「子どもの心理コース」の3コースを設けています。問題意識や興味、関心に合致したコースを選択し、専門的な学習を深めることができます。

また、心理学の専門科目の他に、社会学、人類学、宗教学、精神医学などの心理学に関連の深い分野の科目も設置しています。これにより、人間行動や社会の諸問題を多面的に捉える姿勢と力を身につけることができます。

そして、4年間の学習の集大成として、それぞれの問題意識や興味、関心に基づいて卒業研究を行います。これについては、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」の中で継続的に指導が行われ、4年次の秋学期に研究成果をまとめます。

## 2.教育方法

愛情教育という建学の精神を具体化するために、4年間を通じて少人数制のゼミナールを配置し、担当教員によるきめ細かい指導により、ひとりひとりの個性や夢を尊重しながら、

駿大社会人基礎力の確実な育成を図っていきます。また、学生が教員との協働の中で成長を実感できるようにすることで、学生の主体性や行動力・実行力を向上させます。

主体性や行動力・実行力を高めながら、課題発見能力や問題解決能力を育成するために、PBL(Problem-based Learning・Project-based Learning)を始めとするアクティブ・ラーニングなど、先端的教育方法による講義を積極的に実施します。

また、アウトキャンパス・スタディでは、近隣の様々な社会資源を活用し、現実の地域社会の中で学ぶ経験を提供します。

具体的には、以下の様々な取り組みを通じて、実現していきます。

#### (1)少人数によるゼミナール形式による教育

1・2年次は「プレゼミナールⅠ～Ⅳ」、3・4年次は「ゼミナールⅠ～Ⅳ」において、ひとりひとりの個性、資質、興味、関心等に配慮し、きめ細かい教育を行います。学生は、他の学生や教員との関わりの中で、主体性や行動力、実行力を身につけ、課題発見能力や問題解決能力を向上させます。

#### (2)体験型授業科目

心理学部では、「コンピュータ・リテラシー」、「データ分析」、「心理学実験」、文献講読、心理検査や心理療法に関する演習など、多くの実習あるいは演習形式の体験型科目を設置し、アクティブ・ラーニングを実施します。

#### (3)双方向型授業

体験型の授業科目のみならず、講義科目においても、バズセッション、討議、小テスト、リアクションペーパーなどを用いて、可能な限り双方向型授業を取り入れ、学生の主体的関わりを促進します。

### 3.評価

心理学部では、本学ディプロマ・ポリシーに掲げられている「駿大社会人基礎力」と専門的知識や技能の活用力の修得状況の評価を、①駿大社会人基礎力の到達度の確認、②各科目のシラバスに定める成績評価、③卒業研究の成果把握、によって総合的に行います。

駿大社会人基礎力の到達度の確認は、アセスメントテスト (PROG) を活用して行います。すなわち、社会に出るまでに身につけるべき能力を駿大社会人基礎力として 5 つの力・15 の能力要素に分類し、これらをアセスメントテストによって客観的に測定します。各年次において測定された駿大社会人基礎力は、各自が履歴として一覧することができるので、自分がどれだけできるようになったのか到達度を確認しながら、基礎力の向上を図ることができます。

個々の科目の成績評価については、学習の到達目標を明示し、多様な評価項目を異なった比重で評価します。評価に際しては、獲得した知識の質と量だけではなく、様々なスキルを査定して、最終の成績評価に活用します。

また、学生には、成績評価の最終的結果をフィードバックするだけではなく、授業の過程においても、レポート等の添削結果の返却、コメントペーパーの配布、模範解答の配付など

の方法により、達成度や評価に関して、適宜フィードバックします。卒業研究については、主査及び副査による総合評価を行い、複数教員が統一されたチェック・リストに基づいて評価することで、公正性を担保します。

## アドミッション・ポリシー

養成する人材像や教育課程をふまえ、以下の方針により多様な方式で入学者を選抜します。

- (1) 高等学校までの基礎的な知識や技能を身につけている。
- (2) 論理的思考力を持ち、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- (3) 人間の行動と心理に興味を持ち、諸活動を通じて、自ら学び試行し行動することができる。

以上のような入学者を選抜するために、学力試験、面接試験、書類審査、模擬授業及び課題審査等を取り入れた多様な入学者選抜を実施します。

[2023年4月改定]